

「 ぼくのママ 」

ぼくは ずーっとママを しってるよ
ママのおなかに いるときからね

ママは ぼくといっしょに ミニカーであそぶのが すきなんだ
ぼくもだいすきさ ままがさいごに かたづけてくれるならね
だって くるまはおもちゃばこに きれいにならべなくちゃいけないから
“ブルン ブルン”

ママは いつもすてきなんだ
たまーに くちべにをつけてる
ぼくも ちょっとだけ やってみたいんだよね ママはいいって
たまーに ママのふくを かわいくしたいんだよね
でも それはだめなんだって

ママとぼくは いつもいっしょに かいものに行くんだ
おこめ やさい フルーツ… ほかになにか わすれてない？
ぼくは にもつをもつのが とってもじょうずなんだ
ぼくは かたづけするのも じょうずなんだ
だって あっというまに ポテトチップスのふくろが
からっぽになっちゃうんだからね

おてんきのときは ブランコをしに行くんだ
だれが いちばん たかくまで こげるかな？
もちろん ぼくは ママを ちょっとだけ たすけてあげるよ
じゃないと ママは ぜったいかてないから
“もっとたかく！”

ぼくは やまのぼりが だいすきなんだ
くものうえまで できるだけはやく よじのぼるんだ
てっぺんまでつくと ママが キスしてくれるんだ

ほんとはね ぼくがいつもリーダーなんだ

「パッカ パッカ

パッカ パッカ

ママ かけあし！

ママ はやあし！」

ぼくは かくれんぼが じょうずなんだ

だれも ぼくのこと みつけられないよ ママだって みつけられないんだ

…それで ぼくは さげぶんだ

“わあ！”

ママは すごい こわがるんだ

ぼくは わらいが とまらない

ぼくは しょくぶつに おみずをあげるのが すきなんだ

でも おかしなことに ぼくが おみずをあげると

いつもあめがふりだすんだ

ママは ぼくに ぜったい おこらないよ

でも ママが おこるときは ほんとうにおこってるんだ

そのとき なんでおこってるのかを おしえてくれるんだけど…

ものすごく はなしがながいんだ

ぼくは ほんとうに おそらをとんでみたい

ママは いつもいうんだ あなたが ほんとうにのぞむなら

なんでもできるわよって

ほんとうにそうだ ぼくが じょうずにとべるっていうのが

わかるとおもうよ

でも ママは ぼくを とばせたくないんだ

おやすみのとき ママが ぼくのズボンのほしを そらにうかべてくれる

ぼくは ママに だきついていうんだ

“おやすみ おほしさま またあした！”